第3種郵便物認可

花も実も売るサクランボ

工夫重ねて試作の末 ハチ植え栽培にメド

寒河江の軽部さん

輸入解禁二年目を迎え脚光浴びる"ハチ植え"

サクランボに魅惑した寒河江市の軽部さんが、南部・新潟・佐賀に"移植"されることになり、生産者の高度な技術を駆使し、南部市内の県農業試験場園芸分場で一年間研修、ほとんどをサクランボの栽培に費した。家は祖父の代からのサクランボの農家。九十六に近い日本を通過しているが、米なりと氏へ、天候に左右されやすく、危険性も高い。「何とか安定」に反発する。

「四十六年春、なぜ"ハチ"などにサクランボを植栽することなら始めた。そのままにしておけばどんどん伸びるため、断根するなどして「いじめにいじめ」、一年間無収穫で育成。結果米ではが、で、所定の樹齢に達していたが、

高度成長期を経て、昭和四十年代に入ると、輸入解禁二年目という長期の中でスポットを当てられた。

軽部さんは、四十四年に寒河江市三泉、軽部貫一さんとともに果樹園に自信を傾倒している。コツコツと安定収穫を目指した努力の結晶が、サクランボの